令和5年度 第1回 知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【日時】令和5年7月 19 日(水)
午後1時 30 分～午後3時
【会場】沼津市立図書館視聴覚ホール

1 出席者

発言者：沼津市において様々な分野で活躍中の方 4名

2 発言意見

番号	分野	項　　目	頁
発言者1	社会福祉・教育	障害児の将来の夢を実現するための取組	3
発言者2	教育・地域振興	地域伝承の昔話を活用した沼津の活性化	5
発言者3	コミュニティ・まちづくり	団地から発信するコミュニティづくり	9
発言者4	商業・まちづくり	県産材料を使った酒造りによる県の魅力発信	12
傍聴者1	―	ファミリーホーム運営への支援	18

【川勝知事】 皆様、お暑い中、この広聴会に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

この広聴会は文字どおり、広く聴くということで、沼津の市長さん以下、関係者の方たちが現在の沼津を支える代表者、男女2人ずつ4人を選んでくださいまして、その方たちのお話をしっかり承って、PRすべきところはPRし、また解決するのに県の力が必要であれば、それをできればこの場でしっかり御返事差し上げて役に立てようと。これは聴きっぱなしの会ではありません。私がここで答えられないことがありましたら必ず持ち帰りまして、そしてその御疑念や課題に対してお返事申し上げると。そういうわけで、これまでですね、年に4回くらいこういう広聴会を全県でやっているんですが、もう 80 回目になりました。

その 80 回目の、令和5年度一番最初の広聴会がこの沼津ということでございまして、今年は沼津市の市制 100 周年ということで、沼津市民の皆様誠におめでとうございます。100 周年と言うんですから、1923 年、ですからまだ大正時代ですね。そのときに市制が敷かれたと。その時の人口がどのくらいだったでしょうか。3万4、5千人くらいだっだと思います。今はその5倍を優に上回る立派な市になられまして、御同慶の至りであります。

そのころから、御案内のとおり、既に明治 26 年にこちらに沼津御用邸がありました。つまり日本の国民統合の象徴が、一番大切な存在が、皇居以外の所で職務ができるという、それが御用邸なんですけれども沼津が選ばれているわけですね。ですからいかに格が高かったかということでしょう。

それから、有名な若山牧水記念館がございますけれど、若山牧水さんという人は日本中を旅して回ってた人ですね。「幾山河越えさり行かば寂しさの　終てなむ国ぞ今日も旅ゆく」という有名な歌。お酒も好きだったみたいですけども、わらじを脱いだのはどこでしょうか、ここでしょう。確か大正 9 年ぐらいだったと思いますけれども、晩年はこちらでお過ごしになったと。ですから市制がスタートする大正 12 年の時には牧水さんはこちらで生活されていたと思いますが、文人墨客というか日本の代表までですね、こちらに来られるという、そういう所なんですね。

そしてこの 100 年を迎え、私はこの 14 年間県政を預かってまいりましたけれども、本当に困ったことの 1 つが沼津の高架化問題でした。それもですね、くすぶった面もありましたけれども、いわゆるけんかもなく、最後の最後まで筋を通した方もいらっしゃいましたけれどもそれも解決をして、今はこの沼津駅のこの南北問題をどうするかという前向きなことが考えられるようになったというのも、誠に御同慶の至りであります。

さらにまたですね、ここは世界の鉄人、室伏広治さんを出したり、中学3年生でバルセロナオリンピックで金メダルを取った岩崎恭子さん、それから卓球の平野美宇さんみたいに、スポーツの都み

たいなところがありますが、それが御案内のとおりになっていますが、新総合体育館が竣工いたしまして、今年になったと。誠に 100 周年、見事な始まりだと。

それから昨日ですね、こちらのF3BASEという所に行ってまいりましたけれども、昭和 32 年、国体がこちらで開かれて、フェンシングの担い手になったのが沼津だったわけですね。沼津西高がフェンシング会場になったと。恐らく先生が立派だったと思うんですけれども、フェンシングというあまり知られていないものだけれど、せっかく国体でこの場でやったんだから育てていこうということで、今はフェンシングの町になって、令和 3 年の 6 月くらいだったと思いますけれどF3BASEが出来上がって、この間 17 回ぐらい全日本の代表者合宿が行われてますでしょう。昨日見てきました。今度オリンピックですとか世界大会に出られる選手の方がたまたまいらっしゃってですね、そこで初めてテレビではなくて実際の、気合いの入った演技ではないですね、試合の一端を見せてもらいましたけれども、フェンシングの町としてもスタートしていると。これからは前向きに色々なことができるだろうと。

今日は、朝から加藤学園という所に行き、英語が飛び交っておりまして、中学生、高校生がネイティブみたいにしゃべっているんですね。ですからここは教育に熱心で新しいことを先取りするということが、江原素六先生の精神がこの地に生きていると私は感じているところなんですけれど、なんて言ったってやっぱり富士山の力、それから伊豆半島の出入り口、そして世界で最も美しい湾クラブに入っている駿河湾に臨んでいると。

そしてまた今「黄金KAIDO」っていうのがですね、佐渡の金山と土肥金山を結ぶということで、土肥港にフェリーが入ってきますけど、そのフェリーからずっと中部横断自動車道を通って長野の金山を通って、そして新潟県に出て、フェリーに乗って佐渡金山に行く、黄金街道、これを新潟県、長野県、山梨県と4県でやっているんですね。ターミナルはここですからね。黄金の国ジパングでしょう。ですからね、シルクロードではなくてゴールドロードなんですよ。その道がですね、ここが注目されて、新潟県の方に喜ばれているわけです。長野県に山梨県は海なし県ですから、そういうところの人たちが海を見たいと。冬は日本海は厳しいですから。こちらの快晴のもとでは富士山が眺められるという、富士山の力がおそらく牧水さんのわらじを脱がせたのではないかと思いますけれども。

そういうですね、この 100 周年の機会に、今日4人の方々とお話をしっかり承りまして、県政に生かしていき、あるいはこちらでお力になることがあるなら、そうさせていただきたいというところで、非常に楽しみにしております。しばらくの間でございますけれども、何とぞよろしくお願い申し上げます。

【発言者1】 皆様こんにちは。本日はこのような機会をいただきましてありがとうございます。私からは息子の夢を原点に、今の取組についてお話をさせていただけたらと思います。

まずですね、（スライドの）写真に写っているのは息子の（息子の名前）です。現在高校3年生、特別支援学校に通っています。彼は3歳の時に広汎性発達障害、いわゆる自閉症と診断され、言葉のコミュニケーションがとても難しくて、危険な行動なども見られていつも私はヒヤヒヤしていました。そして彼の特性の1つでもありますが、本当にとても記憶力が良くてですね、嗅覚も鋭いために立ち入れない場所もたくさんありました。当時は、将来のことを考えることがとても不安でしたけれども、12 歳の時に、彼がひきたてのコーヒーの香りに魅了されたことがきっかけで、「僕はコーヒー屋さんになりたいです」と伝えてくれました。今日は彼も一緒に来ていまして、先ほど知事にコーヒーを入れさせていただきました。皆様ありがとうございました。（息子の名前）君、お疲れ様でした。

かつて困りごとだった彼の鋭い嗅覚は、コーヒーに出会えたことで彼の強みとなりました。彼や仲間たちが見る世界がもっともっと広がることを願って、それぞれの強み探しが始まります。

これまでの歩みですけれども、子供たちの将来に目を向けて前に進めるようにと、お母さんたちの気持ちが楽になるコミュニティづくりとして、2017 年に「障害者の仕事を考える母の会」というものを設立いたしました。地域の方々に支援学校や支援学級に通う子供たちを身近に感じてもらいたいという思いで、彼らの自己表現である作品展「心のまま アート展」というものを毎年開催しています。この作品展を通して、多くの出会いときっかけをいただいています。アートを通じて地域とつながる、地域をつなげるを合い言葉に、新たな仲間を迎え、さまざまな御支援をいただきながら任意団体、そして法人へと形を変えてまいりました。

並行して息子の「コーヒー屋さんになりたい」という夢を叶えるために、移動販売車「ぼくの色号」ではお仕事体験、そして企業さんにお邪魔をしたり、イベントで出店をしたり、コーヒーを入れる経験を重ねてまいりました。NPO法人としては、障害児・者の居場所、役割、仕事づくりを進めています。彼はNPO法人の理事に就任いたしましたが、未成年でかつ知的障害のある人が理事を務めることはとても珍しいということで、多分静岡でも前例がないかと思います。誰かの役に立つこと、必要とされることを本人にも周囲の人たちにも示していけたらと思っています。

NPO法人としての取組としては、アーツカウンシルしずおか支援事業の「心のままアートプロジェクト」がこれで3年目となります。こちらの活動は、県民の皆様に御支援をいただいております。大変ありがとうございます。障害を抱える表現者と、年齢の近い高校生サポーターがコミュニケーションを取りながら表現を引き出し、また表現活動を楽しみながら地域にサポーターを増やしていく活動

です。今後は学校教育や企業のダイバーシティ研修を目指しています。この辺りはまた川勝さん、よろしくお願いいたします。

また、新たな取組として日本財団助成事業も進めております。障害者就労等に関する情報共有や、講演会の開催、先駆事業の現地視察、全国に点在する親の会とのつながり、また就労に関しての検討会を進めています。

こちらの写真は、アートと就労の先駆事業者で世界から注目を集めるやまなみ工房さんです。赤いお洋服の方が施設長さんなんですけれども、見た目もハートもとてもかっこよくてですね、利用者さんへの尊敬の眼差しと、それをしっかり感じ取る利用者さんやスタッフの皆さんが本当に心地よい支援現場を作っているんだなと感じました。私もこのようなやまなみ工房さんのような場所を作りたいと思っています。

また、個人事業として 2022 年度には地域に必要とされる仕事作りとして、カラスよけのゴミかご「ぼくの色箱」というものを作っております。作り手は支援学校、支援学級の卒業生やママなどに広げていきます。彼らが全ての作業工程を担えるように、シンプルな材料や手順の検討、また治具の制作をしてきました。特性に応じた仕事と社会参加の場を作り、社会的自立を目指します。沼津市民間支援まちづくりファンド事業には 2018 年度から長きに渡りまして活動を支えていただいております。この場をお借りしまして、理事を代表して沼津市の皆様に感謝を伝えたいです。（息子の名前）君、立って皆さんにお礼をお伝えください。

【発言者1の息子】 ありがとうございます。

【発言者1】 彼が息子の（息子の名前）です。彼が主役の「カフェと工房ぼくの色」としては、彼の夢を叶えながら、みんなの夢を叶えられる場所を作りたい。私の人生においても目指すものが見つかりました。「ぼくの色」とは息子が絵や造形を楽しんでいる姿からイメージした言葉で、一人一人の個性、作品を表しています。

それぞれの色を探して経験すること、挑戦することを恐れずに、選択肢を広げることで全ての人に「ぼくの色」が見つかりますように願っています。大変ありがとうございました。

【発言者2】 皆さん、こんにちは。本日はよろしくお願いいたします。

自分のプロフィールを簡単に御紹介しつつ、僕の活動についてお話しさせていただこうと思います。僕は、昭和 49 年沼津に生まれました。小中高と沼津に過ごし、東京にとても強い憧れがありま

したので、専門学校は東京に進学をしました。その後、俳優という職業に興味を持ち、俳優の世界に 21 歳から足を踏み入れました。そしてそこから 40 歳までの 20 年間、いわゆる売れない俳優という時間を過ごしたわけなんですが、その時間の中でも、芸人さんの勝俣州和さんや堀部圭亮さんの付き人を経験させていただいたり、普段絶対に会わないような大物俳優さんや芸人さんとお話をし、アドバイスをいただいたりと、今の自分を形成する上で、とても大切な時間を過ごすことができました。

俳優生活の方も 30 歳を過ぎた辺りから、テレビで見たよ、なんて言ってもらえる程度にはドラマや映画には出演することができたのですが、40 歳を目前にした時に、自分が俳優として目指している場所には届いていなかったので、40 歳を境に思い切って俳優をやめて再出発をしようと沼津に戻ることを決意して、沼津に戻ってきました。

20 年間俳優しかやってこなかったので、いわゆる社会人として自分に何ができるのであろうということがわからないまま沼津に帰ってきたんですが、そんな自分を支えてくれたのは家族であったり、沼津に昔からいる友達であったり、そういう方たちに支えていただき、少しずつですが自分自身にできることを見つけることができました。そんな中でもまた新しい仲間たちとの出会いがあり、どんどんどんどん大きなことにチャレンジできるように自分の行き先というか、自分の生き方を見つけることができました。

（スライドを示し）これは、沼津をもっと楽しもうと、沼津駅の北口にあるプラサヴェルデさんと協力して地域の企業や団体やアーティストの皆さん、また高校生等を巻き込んで地域を盛り上げる「ぐるぐるNUMAZOO」というシリーズのイベントを開催しております。そしてこれは、吉本興業の間寛平師匠が発起人となって今年で3回開催されました「寛平アメマナイトマラソン in 沼津」というイベントの企画の立ち上げ段階から実行委員で参加させていただいて、町を盛り上げるお手伝いをさせていただいております。そしてこれは、今、沼津では欠かすことのできないコンテンツの「ラブライブ！サンシャイン!!」の全面協力をいただき、アニメ好きのラブライバーと呼ばれる皆さんに沼津の魅力をもっと知っていただきたいという「沼津地元愛（じもあい）物産展」というイベントを開催してきました。

このように様々なイベントを開く中で、今一番大きく動いている活動が、ぬまづ昔ばなし再編出版プロジェクトということになります。この企画は、今一緒に団体を組んでいる編集長が長年温めいてた企画なんですけども、沼津の昔話、昭和 49 年に発行された当時の社会科の先生たちが集めた本があるんですけども、それを今の子供たち、そして今の沼津に生きる誰もが簡単に手に取って読めるような絵物語という形で再編出版しようというプロジェクトを立ち上げて、市議会議員さん

や隣にいる発言者1さんにも手伝っていただき、プロジェクトを立ち上げて企画をスタートしております。

この本は、一話一冊形式で、前半は各地区の絵物語なんですけど、後半は地区の情報ページになり、昔話を後世に伝えていくと同時に、今の沼津もこの本に残そうと思って企画、プロジェクトを進めております。このプロジェクトは4人だけでは決して進むことができず、沼津市長や沼津市をはじめ、学校教育課、明治史料館、文化財センター、歴史民俗資料館や、この沼津市立図書館の職員や司書の皆さんの御協力を得てこの本の企画が実現しております。また発行に当たり、地元の自治会の皆様や学校の校長先生など、本当にたくさんの方の力、郷土愛に溢れた人たちの力が込められた一冊となっております。今4冊発行しているんですけれども、続刊を発刊中ですので、1人でも多くの人に沼津のこの物語を知っていただき、地域への愛着を持っていただき、郷土愛につながればうれしいなと思っております。

そして、最後に、沼津市制 100 周年市民提案事業ということで、沼津の高校生の「沼津ハイポート」という学生団体があるんですが、これは沼津市の生涯学習課が企画している「高校生しゃべり場 in ぬまづ」という学生の討論会があるんですが、そこから生まれた学生団体「沼津ハイポート」と一緒に沼津の 100 周年を盛り上げようとイベントを作っている最中です。

「100sai 祭 in NUMA SUMMER」ということで、沼津市とプラサヴェルデの協力により、キラメッセ沼津を全面的に使ってイベントを開催する予定です。このイベントは8月 19 日に開催する予定なのですが、コロナ禍で3年間を過ごした、コロナ真っ只中で過ごした高校生たちが色々壁にぶつかりながら企画を進めている最中です。彼らはこの3年間、マスクをして声を発することすらできなかった3年間を過ごしたんですが、彼らなりにこのコロナを乗り越えて、未来を見つめて、自分たちのやりたいイベントを作ろうとしています。どうぞ沼津市の皆さん、そして川勝知事、キラメッセで8月 19 日、彼らがやっと出せるようになった大きな声を聞きに来ていただけたらうれしいと思います。

このように、沼津に帰ってきて、色々な人に助けてもらいながら、僕は色々なイベントや地域を盛り上げる活動に携わらせていただいておりますが、この沼津という町は、僕以外にも民間も行政も沼津を盛り上げようと頑張っている人たちがたくさんいます。

どうか、川勝知事、そういった方たちの声に耳を傾けていただき、より応援と御協力をいただけたらうれしいと思います。本日はありがとうございました。

【川勝知事】 さすがに沼津を代表する方だなと思って、発言者1さんと発言者2さんのお話を聞き

ました。（息子の名前）さん、コーヒー、どうもありがとう。ここにいる全員、それから先ほどは頼重沼津市長さんもいらっしゃいましてお昼を御一緒したんですが、食事ももちろんおいしかったんですが、食後に目の前で彼がコーヒーをたててくれたんですが、すごい良い香りが部屋に漂いまして、それをいただいてこちらに来ております。本当にありがとうございました。贅沢なひとときでした。

（息子の名前）さんのお母さんが、彼が素晴らしい臭覚を持っていると、当初はそれに敏感だから困ったなあと思っていたところが、コーヒーがとてもいい香りがするということを発見されて、その能力を伸ばして、ついにこういう立派な方たちに堂々とおいしいコーヒーを入れられるまでになられました、おめでとうございます。

やっぱりそれぞれが持っている障害と同時に、他の方が持っていない特性というものを誰かが見つけて差し上げて、見つけて差し上げるその背景にあるのは愛情だと思いますけれども、見つけて差し上げればそれが伸びると、そうすればその人が持つ色を出せると、その人しか出せない色を出せるということがわかりました。

それが何かというと、やっぱり色ですから、芸術なんですね。ですからアートだと。心のままに潜んでいるアート心。それを上手に手助けをして外に出してあげれば、すごく元気で幸せに生きることができるということですね。ですから（息子の名前）さんが、その自分の色のコーヒー店ができるようになれば、同じようにですね、別の能力を持ってる人たちもみんなでその人たちの持っている能力、芸術的な感性、これを探してあげて、そしてそれを人々を喜ばせるような仕事につなげられれば何よりのことだと思います。

そして、発言者1さんがアートだと言われたのがとても大事だと。私は尊敬する宮城まり子さん、亡くなられましたが、あそこのねむの木学園に行ったことがありますが、あれは学園ではありませんね。美術館です。

ですから、普通の絵描きにはどうしても描けないものが、その人たちの心の世界が描けてると。先ほどはやまなみ工房ですか、その話をされましたけれども、そういう眠っている能力を引き出すことができるんだと、人間はアートを生む存在だと。その存在が実はそういう障害のある子たちに対してですね、見つければすごく花開きますよということを知っている人たちがいるわけですね。そして発言者1さんは（息子の名前）くんにそれを見いだされて、そういうことをやっている方がいらっしゃると、御自分でもそういう工房が開くことができればということですので、沼津でそういうことができればいいですね。打ち立つことができるならば、これから 100 年の間にですね、そういう障害のある方たちの芸術が花開く町となれば素晴らしいじゃないですか。そう思いました。

発言者2さんは、10 代で俳優になろうというんですから、これは志を立てられたんですね。通常

3年で諦めますけれども、20 年頑張ったっていうんですから本物です。そして 30 にして立つと言いますが、お付きを含めて最高のいわゆる演劇人等々と付き合って、自分はこれでは生きていけないと。そこが偉いですね。もがかないで、不惑の年で戻るって決めたわけですね。沼津しかないと。沼津があってよかったですね。戻る場所がすごいですからね。私どもの所に「ぬまづ昔ばなし」の第3巻と4巻がありますけれど、おもしろい絵と、後ろは先ほどおっしゃったように情報が満載してます。ですから彼は調べてるんですね。沼津市は、合併等々したんですけれど小学校だと 23 区くらいあるんですか。それに応じた所でそれぞれに郷土愛があるから、それぞれの地区で多分 23 は最低できるでしょう。そうすると同じ学区で育った所の地域の眠っている、あるいは皆が知っているけれども子供たちが知らないものを載せて、そしてそれを共有していくと。

この方が優れているのは、俳優ですからね、プレゼンがうまいですよね。それから 1970 年代っておっしゃいましたか、半世紀前の社会科の先生が書かれた、郷土に造詣が深い先生が書かれた真面目な本を、俳優ですから、聞いている人にわかるように台詞を言わなくちゃいけない。そういう台詞の能力を文章にされたわけでしょう。ちょうど黒澤明監督の「七人の侍」を色々なかたちでリメイクしてそれぞれの時代に応じていくように、50 年前のものを今の時代に合わせて物語にされているわけですよ。

中学のいわゆる学習指導要領に書かれていることを先生は教えるわけですけれども、地元のことはなかなか先生も教えてくれない。ですからこういう教材があると一生残りますよ。ですからいい先生を得たなと。戻ってきて良かったと同時に、編集長さんは、今日いらっしゃいますか。ああなるほど、名コンビですね。いかにも並んだら二人で漫才でもできそうな、（発言者1の息子の名前）さんの隣にいらっしゃる方が、なんと、素晴らしい関係じゃないですか。芸術的関係ですよ、これは。絵ものがたりですから、これもひとつの芸術ですね。

おそらく 40 年、50 年前に先生がお書きになられたものは真面目なだけの本だったのではないかと思いますけれども、それが現代に生きたということで、お書きになった先生も本当に喜ばれていることでしょう。それがこういうことをされている方を一緒に助けていくということで、学校の先生はですからこういう人たちと一緒になって、中学生、小学生でも十分に読めると、こういう感じですから。知識は満載だと。地域のことが知られると。そういう人たちがやがてまた 30、40 代になった時に戻ってきた時に原点だったのが、自分の郷土に戻ろうと思ったと、そういうきっかけにきっとなるでしょう。発言者2さんの場合は編集長さんだったんですね。いい友達を持たれて最高の宝物だと思います。いいお話、ありがとうございました。

【発言者3】 はじめまして。合同会社では、イベントの企画運営だったり シェアオフィスの企画運営など様々なことを行っていますが、今日は、もともと専業主婦だった私が合同会社を作り、様々なプロジェクトに挑戦するきっかけとなった団地でのプロジェクトについてお話をさせていただきます。

私が住む大岡団地は、全 16 棟 252 戸、築 50 年になる分譲型の団地になります。団地からは沼津駅まで自転車があれば 10 分ほどで着いたり、学校や公園が近く、非常に利便性のいい場所にあります。ただ築 50 年もたつと、住民の高齢化が進み、空き家も少しずつ目立つようになってきました。私が子供の頃は、団地に住む子供たちは 100 人を超えていて、お祭りや行事もすごく賑わっていましたが、今では 10 分の 1 ほどとなってしまっています。もともと祖父母が住んでいたので、小さい頃に団地のお祭りに参加したり、すごく思い入れのある団地なのですが、このまま何もしなければ 10 年後 20 年後は空き家だらけのゴースト団地になってしまうのではないかなって思うようになりました。そのままにはしたくなかったので、私にできることをやってみようと思って、団地の活動を始めたのがきっかけです。

まずは、そんな団地を色々な人に知ってもらいたいなと思って、団地の公園でマルシェを始めたのが最初です。団地の横に公園があって、そこを使って毎回 10 店舗前後の飲食店だったり、ハンドメイド作家さんを呼んでマルシェを開催しています。ただマルシェを始めるに当たって、最初にやる目的とゴールを決めました。目的が、団地の住民に楽しんでもらいながら団地を知らない人に知ってもらうため、ゴールが若い世代も増えて空き家が減ることです。駐車場もなく小さなマルシェなので、今まで大々的な告知もしてこなかったんですが、続けてきたことで認知度がアップしたと思っています。

昨年度はマルシェ以外でも、県内外から 50 人ほどの方が団地を見に来てくれました。続けてきたことで団地内でも変化がありました。団地に住むママさんが「一緒に私もやりたい」って言ってくれて、今では月に2回、団地の横の空き店舗前で朝市を開催してくれるようになりました。

そしてなんと今年の2月には、私たちの活動を知って東京から夫婦が移住してきてくれました。この御夫婦が建築家の御夫婦だったので、団地でどんな暮らしをしたいかっていうことを一緒に考えて、予算があまりなかったので、沼津の町のみんなにリノベーション作業を手伝ってもらって、実際に出来上がったのがこのアフターの写真なんですが、完成した時には団地に住むおじいちゃんおばあちゃんにも内覧会みたいな形で見に来ていただいて、古い団地だけどちょっと手を加えるとこんなふうに暮らしたり、または新しい人に住んでもらったりということができるよっていうのを、実際見てもらうことができたかなっていうふうに思っています。

そんなマルシェの話をたっぷりしたんですが 今週の土曜日に団地マルシェの 11 回目を予定し

ています。ただ書いてあるとおり、ファイナルという文字が見えるかと思うんですが、次の団地マルシェで一度一区切りにしようと思っています。終わりにする理由はいくつかあるんですが、私たちの小さなマルシェはコロナが明けてきて集客が厳しくなってきてしまって、私も続けるのが苦しくなってきてしまったというネガティブな理由もあるんですが、でも続けてきたことで認知度がすごく上がったこと、あとはこれからはやり方を変えて団地の良さを伝えていこうかなと思っています。

マルシェは終わるけれども、これで団地の活動が終わりなわけではなくて、実際に私と移住してきてくれた人と、あとは元々団地に住んでいる方々と団地暮らしを楽しむ様子を発信して魅力を伝え続けていきたいなっていうふうに思っています。マルシェを始めたことで団地のおじいちゃんたちと一緒にお酒を飲むようになったり、団地のことでも朝市を始めてくれたり、いろんな変化があったんですけれども、様々な方々と一緒に仕事をさせてもらうことが増えて、いろんなことに私自身もチャレンジさせてもらって、その結果、会社を作ることになって、私も子供たちも沼津でたくさんの友達と居場所ができました。専業主婦だった時よりもずっと沼津のことが好きになって暮らしが豊かになったので、これから出会う人とか、すでに出会ってる人たちの暮らしが豊かになる、そんなきっかけづくりを続けていきたいなっていうふうに思っています。御清聴いただきありがとうございました。

【発言者4】 こんにちは。本日はありがとうございます。

何でこんなこわもての男がここに座っているんだと、自分でもすごく疑問なので、経歴と、ジンを作っているきっかけなどを交えて話をしていきたいと思います。

僕は 1980 年に沼津市の大岡という地区で生まれております。高校卒業後、神奈川の大学で建築学科にいまして、その後は同じ神奈川の建築のデザイン事務所に勤めております。30 歳の時にちょっと体を壊しまして、退社するきっかけになったんですけれども、その時に沼津に U ターンしてきた次第です。学生時分にずっとバーで働いていたものですから、自分で起業してみようとバーをやったのが、お酒とすごく深く付き合うきっかけになりました。

皆様から、何でクラフトジンを作ったんだっていうことを一番聞かれるんですけれども、それはジンの本場のイギリスまで話がちょっと遡るんですけれども、2010 年代にですね、イギリスのあるジンを作っていた酒蔵が、そのまま残っていた酒蔵なんですけど 200 年ぶりにその蒸留器が稼働するというニュースが流れたんですけれども、それをきっかけにイギリスでクラフトジンのブームというのが来るわけですね。その時、2010 年の時点ではイギリスのウイスキーの市場が 2,600 億円、ジンの市場が 700 億円くらいだったんですね、その時は。ですがイギリス 2019 年の統計ですが、ジンの規模がウイスキーを超えることになります。ウイスキーが大体 2,900 億円に対し、ジンがその

時点で 36 億ドル、約 3,800 億円。実に7倍までいかないですね、6倍くらいの市場規模になったわけですね。

そのうねりがやはり日本にも入ってきまして、2016 年、イギリスの酒の作り手の方が京都に来てクラフトジンを作り始めるわけですね。それが日本のクラフトジンのブームのきっかけになってます。私、先ほど言いましたとおりバーを経営してたものですから、そこでですね、早速ジンを仕入れまして試飲してみたところ、今まで飲んだジンとは全く違う、香りの高くてすごく飲みやすいものだったんですね。香り付けの材料を見たら、ゆずとか玉露とかそういうものが書いてあったわけです。私はもちろん静岡出身なので、柑橘とお茶と言えば静岡でできないことはないなっていうことを思いまして、そこからジンを作るにはどうしたらいいかっていうのを模索していって、現在に至るわけです。

やはり富士山由来の伏流水ですね、水もすごくジンを作るためには強みでありまして、あと黒潮からの影響される海洋性の気候ですね。で、ボタニカル、柑橘類とかあと伊豆の山にあるハーブとかですね、そういうものが一番あのジンの香り、味を決めるにはすごく大事なものになってきます。

皆さん、受付で配られたこの小さいパンフレットお持ちでしょうか。すごく見づらいものなんですけれども、ざっくりどのような感じで静岡の材料が使われているかっていうのがこちらを見てわかると思うんですけれども、一番左上の赤いボトルのものですね、こちらは沼津市の戸田橘、西浦のミカン、伊豆の山の黒文字、青山椒などを使って香り付けをしています。右側ですね、上段の真ん中です。「ヘブンリーローズ」という商品なんですが、こちらは河津町の食用バラを使っております。隣の「シャイニーレモングラス」、こちらは西伊豆の松崎町で結構大きくオーガニックのレモングラスを育てている農家さんがいて、こちらを使わせていただいております。下の左、「スモーキーゴールド」という商品は、沼津の愛鷹山で取れる「こん太」という品種の金柑をメインに、そちらで取れている和紅茶なんかも香り付けに使ってございます。次の「ナッティストロベリー」ですね、こちらは江間という地域、伊豆の国市で取れているイチゴ、その隣「ラシュリーグリーン」は松崎町で取れている和菓子に使われる塩漬けの桜葉ですね、こちらをキーボタニカル、メインの香りとして使っております。静岡には、香り付けに使えるものがまだまだたくさんあります。私たちは農家さんと直にお話しをして、新しい香り付けのものを探して、静岡の香りを瓶に詰めて県外、世界まで出していきたいというのが目標でございます。

実際こういう事業をやっていると、その事業どうなんですかみたいな御質問をよくいただくんですけれども、ちょっとリアルな話をしますと、酒類、お酒の消費量というのは 1999 年からずっと落ちている状況なんですね。特にビール、日本酒、焼酎などは顕著に出ておりまして、ずっと下がってお

ります。コロナの影響がある前から、もう下降の線は変わってないので、元々そういうふうな世の流れにはなってきているんですが、僕らが作っているジンはスピリッツというジャンルになりまして、それだけは、なぜかうっすら、ずっと右肩上がりで来ております。

ジンの輸出量なんですけれども、2018 年ぐらいに日本から輸出されたジンは 1,405 KL ですね。2017 年の 606 倍ということになります。ここで僕らの生産量も初年度、2年度目では 2,000 L ぐらいで推移してたんですが、このコロナが終わった後、一気に倍の 4,000Lの製造量となっております。なので結構明るい話題なんですけれども、僕らはですね、ジンの製造を通して、写真のように和気あいあいと会社でやっているんですけれども、地方都市ならではの会社のあり方というか働きやすさを発信していきたいと思っていますし、あと、かっこいい仕事というとまた語弊があるかと思いますけれど、憧れられるような仕事で雇用の創出をしていきたいと思っています。

知事ともお話ししましたけれども、静岡のお酒の種類っていうのは日本全国的に見てもかなり多い方に入るそうです。ビール、日本酒、焼酎、ワイン、スピリッツ、いろんなものが作られてます。やはりこれは地域の特性ですね、水がいいとか、気候がいいとかっていうのが起因してると思いますので、是非静岡をお酒の県、お酒の町として、静岡の特産品ですね、お酒とかいろんなものを集めて海外に、おらが町じゃないですけどエキスポみたいのにみんなで行けるといいなっていうのは思っております。 以上です。

【川勝知事】 とてもいいお話で、発言者3さんはさりげなく言われましたけれども、大岡の団地ですね、祖父母が、おじいさんおばあさんがそこにお住まいになってて、お孫さんの発言者3さんが遊びに行ってられたわけですね。おじいちゃんおばあちゃんというのは孫に対して愛情しか注がないじゃないですか。お父さん、お母さんは教育ママゴンだったりして、色々と子供に対して期待をすごくして子供が負担に思うことがあるんですけど、おじいさん、おばあさんはとにかくかわいがると、そしてそれが愛情量になって目に見えないけれど積もっているんだと思いますね。そういう無償の愛を小さな頃に受けた子は優しくなるんじゃないでしょうか。きびしい環境で育った子は、何に飢えているかって言うと一言で言うと愛情です。発言者3さんは「〇〇ちゃん」などと呼ばれて、可愛がられて可愛がられて育ったと。その思い出がですね、この団地の復活というか、これの原点にあるなというふうに思いますね。

まあですから、この継続だっておっしゃったけど、やっぱりおじいちゃんおばあちゃんの思い出は消えませんので、そこでマルシェを思いついて、なんと移住者まで出てきたと。これは大変なことです。

コロナの時には東京は 400 万人ぐらいの人が感染したんですよ。日本で数千万、3,000 万人くらい感染したんですよ。一番多いです。東京、埼玉、神奈川そして千葉で全国の優に3割を超えている方が感染していると。密の中で感染するので、人口密度の高い所からもう少し空気がきれいな所、景色がきれいな所に移住したいと思うじゃないですか。その結果ですね、東京から近い、そして景色がきれい、食べ物が豊富、体が動かせる、東京にも行ける、オンラインでも仕事ができるということでですね、静岡県が 2020 年、2021 年、2022 年、3年連続移住希望地ランキング1位になったわけですね。

そしてそれだけではなくて、移住してきた人がいます。その人たちの数値が 2020 年で 1,300 人台だったんです。そしてその 81.7%、何で数字を覚えているかというと、すごい数字だなあと思ったからなんですが、それが 30 代前後だったんですよ。40 代、50 代、60 代、70 代で終のすみかは静岡県という、そういうイメージがあったわけですね。ところがですね、30 代で一番お金が掛かる世代の方たち、子供が小さいから、その方たちが移住してくるわけです。2021 年になるとその数が 500 人増えまして 1,900 人くらいになったわけですよ。さらに 2022 年になると移住してきた方たちがさらに 700 人増えて、2,600 人くらいになったんですけれど、全部 80 数パーセントなんですよ、30 代前後が。特に東部だと思いますけれども、脱出というよりもここで生きようという人たちが増えてきてるんですね。偶々その中に建築家がいらして、そして模様替えをしたらおじいちゃんおばあちゃんも来られて楽しい思い出もできた。

発言者3さんはマルシェを卒業されまして、また別の事業を起こそうとされてるというふうに私は承知しておりまして、ですから一番原点にあるおじいちゃんおばあちゃんの愛情がですね、マルシェになって人が来て、そして住まいは必要ですから。それで近いと、沼津駅から自転車で来られるという所ですのでね、そうすると選べるじゃないですか、それを発信していこうというわけでしょう。マルシェの時代は終わったと。これから大化けするんじゃないかと、市長さんと東部地域局長とこれから注目して見ていきたいと思いますね。

発言者4さんはですね、もう会ってるんですよ。ユニークでしょう、どう見たって。一見俳優みたいですよね。

「レイジーマスター」シリーズと書いてありますが、レイジーというと怠慢とかあまりいいイメージではないですね。このゆっくりゆったり楽しむためにですね、むちゃくちゃ勉強してるじゃないですか、数字が出てきたじゃないですか。200 年前、ジンというのはイギリスの大衆の飲み物だったんですが、ものすごいジン流行りがあったわけです。それも知ってるわけです。樽が発見されて復活して、ウイスキーを抜いたっていうんですから、スコッチを抜いてジンになったと。そして京都に行っ

て飲んでみて、これは香りが違うと。自分が学生時代に建築をやりながらバーテンをされていて、そして戻ってきて、偶々そういう経験が建築の方ではなくてアルバイトの方のそれが生きて、インスピレーションでしょう、これでいけると思ったわけです。フレーバーに気づいたわけでしょう。トニックウォーターとあとレモンかライムを普通搾るじゃないですか。その香りの原点が全部こっちにあるじゃないかと。戸田の橘だと。あと河津のバガテル公園がありますけど、ものすごい種類のバラを作ってるわけですけど、食用のバラがあるって知ってるわけです。レイジーマスターには分からないですよ。松崎は大島桜、言うまでもなく桜餅の葉っぱの原料で日本の原料のほとんどをあちらで作っているわけですけれど、それが使えると。これはもうフレーバーの宝庫だとお気づきになったわけですね。しかも今輸出までしていると聞いてびっくりしました。

ですから我々が若い頃には、ニッカとかトリスとか、イギリスのスコッチなんて憧れの的だった訳でございますけれど、イギリスに行った時、最初に行ったのは本屋ではなくて、スコッチだったんですよ。スコッチといって店では売ってないんですよ。スコッチの店に行くとそこではセーターを売ってるんですよ。そこで酒屋に行ってみて、ベストスコッチをくれって言ったんです。「ベストウイスキー、プリーズ」と。すると店ではモルトかあるいはブレンドだと言われて、どっちかわからないので日本で飲んでるのと同じでと言ったら、シーバスリーガル、向こうは水が汚いからストレートで飲むわけですね。陶然としましたね。それから肝臓にいっぱい穴が空きまして、それからお酒弱くなったんですけれど。スコッチっていうのは憧れでしたよ。それが抜いたじゃないですか、日本は今。何故でしょう。水がいいからです。向こうの水準を見ながら舌を鍛えて。山崎なんて手に入らないでしょう。

それが今ワインでも起こったでしょう。ワインは甲州が有名ですけれど、ミラノで万博がありました。そのときにですね、私どもブースを持っていて、食の万博だったんですね。お茶と日本酒を出したわけです。そのとき甲州は横内という知事だったんですけれど、うちは出さないと言うので、貸してあげるから出しなさいと言ったんです。 甲州ワインを出すと 500 本持ってきたんです。あのミラノですよ、高級な。そこであっという間に甲州ワイン 500 本が売れてしまいました。今輸出しています。つまり甲州で作っているブドウから作られるワインは研究されてますから、最高級のイタリアワインの味覚を持っている方を抜いたと。それが今ジンで起こっていると。だから楽しくてしようがないんですね。

この方、実は県から賞をもらってるんですよ。ですからもうお目に掛かっているんですよ。「魅力ある個店」の特別賞。長くなってすみません。楽しい話でつい。

実は、20 数年前に良い水があるからここでビールを醸造したいと言われた方と昨日一日一緒でした。ここで 10 数年いらして、手狭になったんで伊豆市に移られて、昨日は 20 数種類作っている

と。梅のフレーバーを付けたビール、ライジングサンというビール、全部味が違うんですね。彼は言ってました。フレーバーを付けるんですが、ここではそれが可能だと。ホップというのも入れるんですが、彼はそれも自分で作っている。材料にこだわってるんです。そして最後は、水が良いって言いましたよ。

洞爺湖サミットで使われた大井川沿いの「磯自慢」、あるいは「志太泉」とか「喜久酔」とか「おんな泣かせ」とか、色々あるんですけれど、やっていることで共通していることがあります。粗製濫造しないんですよ。良いものを良いままにお作りになると。何故かというと味覚が肥えてるんですね。変なものを作って売らないんです。同じことを彼も言ってました。

あちらは醸造酒、こちらは蒸留酒なんですよ。こちらも大化けするんじゃないでしょうか。今何点くらいあるかわかりませんが、そんなにたくさんジンを作っている蒸留家はいないと思いますが、そのうちの名人になりますね。そういう方がいるのは沼津で舌が肥えて、フレーバーをどこかで味わってるんですね。沼津の水とかね、潮風、食べ物、香りとか新鮮な西浦のミカンとか、テレビで放映されてましたが、転がっていって海の中に行くと鯛が食べてましたね。

ともかくここは食材の王国で、同時に季節に応じてできるからイチゴなんかも芸術品ですよ。439 品目、花は 704 品目ありますよ。食材の王国、花もいっぱい品種改良してますから、一品目につきだいたいバラなんか 1,000 品種くらいありますから。ですから生きとし生けるものが生き生きと生きてる。富士山の雪は全部溶けて水になって、それが光を受けてそして花や生き物を支えているわけですね。それを我々は今享受していると。ここにかなう所はちょっとないんじゃないかと。ここに来られる方が増えてきたということで それの発信拠点の一つを発言者3さんがやろうとされてる、お越しになればいいでしょう。

そしてここで人生を楽しむと、皆が幸せに生きられると、障害のある方もそうでない方も、東京で失敗した方もこちらに戻ってきてセカンドチャンスができる、再チャレンジができると。そういう話になって、100 周年にふさわしい、新しい一歩を踏み出すと。「きらり沼津。次の 100 年へ」で頼重市長もおっしゃってましたが、そういう話を聞いて色々なことを思い出しました。

特に発言者4さんのお話。私も酒を飲まない人を心から尊敬しておりますが、人生で一番好きなものはお酒です。一番嫌いなものもお酒です。そういうものとしてじっくり拝聴したと。長くなってすみませんでした。ありがとうございました。

【発言者2】「ぬまづ昔ばなし」については、現在 企業や団体からの協賛金や沼津市からの助成金によって作成しているんですが、販売というより協賛販売となっています。沼津駅のアントレの中に

ある沼津市観光協会さん、もしくはホームページがありまして、そこでのネット販売で本を入手することができるようになっております。去年は本当に走り出しで、まずは本を出すっていうことに全力疾走してきたんですけども、これからは本を皆さんに実際に手にとっていただきたいので、それを整えていくことを頑張りつつ 3ヶ月に1回本を出していきますので、是非皆さん手に取っていただけたら嬉しいと思います。よろしくお願いいたします。

【発言者4】 今現在、パンフレットに掲載のとおり6種類の香りのジンが出ているんですが、7 種類目を今年発売予定なんですが、中に入れるボタニカルというのが御殿場のワサビですね。農林大臣賞を何度も受賞されている有名なワサビ農家さんがいらっしゃるんですが、そのワサビを仕入れて、今年発売されるので宣伝みたいになっちゃいましたけど、こちらもよろしくお願いします。

【発言者3】 団地も移住してくる方が多いんですが、私の会社で今管理しているシンマチという沼津の駅の南にあるシェアオフィスもすごく移住者の会員さんが多い場所となってまして、もともと移住促進とかっていうことがやりたかったわけではないんですけれども、団地もシェアオフィスも両方とも自然と移住者さんが増えて集まる場所になっているので、その方たちに沼津のいいところだったり、今後も良さを伝えて行けたらなっていうふうに思っています。

【発言者1】 下の方たちにもどんどん伝えていきたいなとは思っているんですけれども、なかなかこの御時世、ちょっと調べようと思ったらインターネットで何でも調べられるというところで、人と人との直接のつながりが少し薄れてきているなと思っています。 特に私たちも、息子が通う特別支援学校という所は地域にある学校ではなくて、例えば沼津では原地区という所にあるんですけれども、2年前までは修善寺、伊豆市であったり、伊豆の国市、 天城の方からこの沼津に春まで通ってきていたという所もありました。今は解消されて伊豆の国市にも新設校ができているんですけれども、やっぱり運動会であったり、皆さんが交わるといった機会がコロナ禍で絶たれてしまって、よりお母さんたち、本当にもっともっといろんな子供たちの話をしたいと思うんですけれども、そういった機会が薄れてきた中で、 また私たちが今やろうと思っているネットワーク作りというところで頑張っていきたいと思っておりますので、また是非皆さん、応援の方よろしくお願いいたします。

【傍聴者1】 沼津市の傍聴者1と申します。第2種社会福祉事業所、ファミリーホームというものをやっていまして、10 年以上前に、千本プラザで知事広聴をやったときに、知事に現実を見に来てく

ださいとお願いしたら本当に知事が来てくださって、あれから 10 年経ってます。そのときの子供たちはもう県立大学などを卒業して、社会人として働いています。今また他の子供たちで、一番小さい子は小学校1年生、私は 70 を過ぎております。その子が 20 歳になるまで頑張らなきゃならないと思っています。

要望書を3年ぐらい続けて出しています。それで、まずそれを見る前に、ファミリーホームは静岡県に8か所、沼津市に3か所あるんですが、私たちの現実を聞いてから要望書を確認していただきたいなって思います。10 年以上前には「局長さんと語る会」とかっていうものがありまして、いろいろ私たち大変な現実も聞いてもらえたんですけれど、そういうふうに聞いてくれる所もなくなって、障害者も預かってますし、大変な思いをしていますので、現実を、私たちの話を聞いてほしいなと思って、一番前に座らせていただきました。知事として子供たちを育てている私たちの話を聞いてください。お願いします。

【川勝知事】 3年間、梨のつぶてみたいなことになってしまい、申し訳ありませんでした。

この3年間はコロナ対応に追われていて、なかなかにといったこともあったかと思いますが、こちらに知事戦略局長がいますのでお話を伺います。お友達も連れていただいて結構です。

誰かのために、何かのためにというのはありがたいことではありますが、しかしね、体力や限界以上のことになると、それは自らが倒れてしまって世話してるものに対してできなくなりますからね。ありがとうございました。

発言者2さんですね、今改めて「ぬまづ昔ばなし」の後ろのページを見ますと、編集長さんのお名前が書かれてます、そして発言者1さん、こういうお仲間が本当にたくさんいらっしゃる。編集長さんだけじゃなかったですね。四捨五入すれば 10 名じゃないですか。こういうお仲間がたくさんいらっしゃって何よりでございました。

それから、団地というのが何故重要かというと、東京 23 区の人たちが住んでる所は いわゆる一戸建てじゃないですね、ほとんど 90％以上はマンションに住んでいるわけですが、同じ住まい方ができるわけじゃないですか、団地ならば。つまりドアから入って同じ生活をすると。ここではコミュニティができると、友達ができるということが発言者3さんのやってらっしゃる強みになると。団地が生かせるというのは、首都圏に住んでいる方の住み方の連続性をこちらに持ってこれるということだと思いますね。

発言者4さんが今度はワサビだとおっしゃって、今後は御殿場を励ましてくださるということで、7

本目、ラッキーセブンが新しく売り出されるということですね。最もよく出てるのは何でしょうか。

【発言者4】 1 作目の戸田橘と西浦ミカンのジンですね。

【川勝知事】 1 作目の沼津ですね。柑橘の橘の字は橘ですからね。これが一番売れているそうです。沼津の香りです。

発言者1さんは、最後にネットワークができているとおっしゃられました。1人で苦しんでどうしようかと悩まれていた昔からですね、（息子の名前）さんもこうして立派になられてその夢を語れるまでになったと。それを同じように苦しい思いをしながら解決を求めている人たちとの間でネットワークが作られつつあるというのは大きな発展だと思いますね。1人ではできないことが一緒にやればできます。

ですからネットワークを作ることはすごく大切だと思いますし、すでにお隣の発言者2さんとも御本を通じてネットワークができているということですから、今回の4人の方たちがそれぞれお持ちのネットワークが新しいネットワークとして5年 10 年たつとですね、大きく大化けしているあの4人組であったと。四天王だななんて言われるそういう時代が来るのではないかと思います。

本日は暑い中、お運びいただきまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。